



平成30年3月期 決算短信補足説明資料

株式会社 F F R I (東証マザーズ : 3692)

<https://www.ffri.jp>

会社概要

会社名： 株式会社 F F R I (FFRI, Inc.)
所在地： 東京都渋谷区恵比寿1-18-18 東急不動産恵比寿ビル4階
役員： 代表取締役社長 鵜飼 裕司
取締役最高技術責任者 金居 良治
取締役最高財務責任者 田中 重樹
社外取締役（監査等委員） 下吹越 一孝
社外取締役（監査等委員） 高橋 郁夫
社外取締役（監査等委員） 松本 勉

設立： 2007年7月3日

資本金： 285,698,500（2018年4月30日現在）

- 事業内容：
1. コンピュータセキュリティ研究、コンサルティング
 2. ネットワークシステムの研究、コンサルティング、情報提供、教育
 3. コンピュータソフトウェア及びコンピュータプログラムの企画、開発、販売、リース、保守、管理、運営及びこれらに関する著作権、出版権、特許権、実用新案権、商標権、意匠権等の財産権取得、譲渡、貸与及び管理
 4. 上記事業に関連する一切の業務

2014年9月30日 東証マザーズ上場

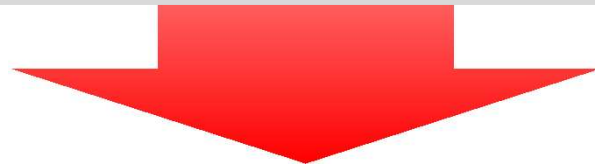
人員数の推移

国内に研究開発企業が不在

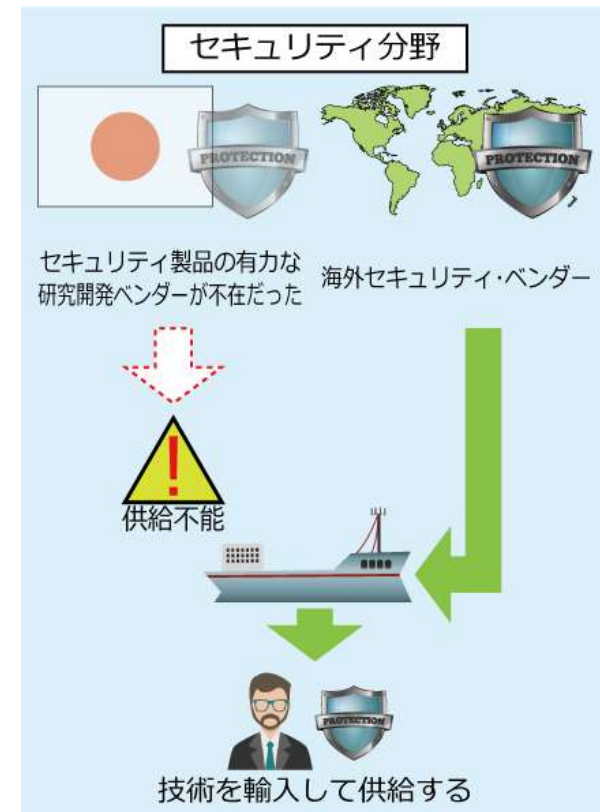
標的型攻撃を含む
未知の脅威の拡大

自国で問題解決できないリスク

国産の対策技術の必要性



- これまで日本は対策技術を海外からの輸入に頼っていた





社名とコーポレートマークに込めた思い

- 「FFRI」は、「**F**ourteen**f**orty **R**esearch **I**nstitute」の略称
- 「1440」は、スノーボード・ハーフパイプ競技におけるジャンプの回転数に由来
- 設立当時、4回転ジャンプできる競技者が存在せず、前人未到の領域への挑戦を志し、「1440 (360°×4回転)」を社名に採用

Fourteenforty Research Institute



FFRI

コーポレートマークにも「1440」の文字とスノーボードの回転をイメージした矢印で、設立当初から変わらない「**未踏の分野への挑戦**」を表現



コーポレートマーク

世界トップレベルのセキュリティ・リサーチ・チームを作り、
コンピュータ社会の健全な運営に寄与する



業績説明



業績サマリー

- 主力製品のFFRI yaraiの売上は前年同期比31.2%増
- 個人モバイル向け製品で既存契約の売上が上振れして着地
- 事業環境を考慮したコストコントロールにより利益が増加

(単位：百万円)

区分	2017/3 (単体)	2018/3 (連結)	増減比 (%)
売上高	1,471	1,673	13.7
営業利益 (利益率：%)	257 (17.5)	309 (18.5)	20.3
経常利益 (利益率：%)	258 (17.6)	309 (18.5)	19.9
親会社株主に帰属する当 期純利益/当期純利益 (利益率：%)	271 (18.5)	222 (13.3)	△18.1

(注) 当社は、2017年4月3日に初めての連結子会社となるFFRI North America, Inc. を設立しております。
このため、2017/3は単体の業績数値、2018/3は連結の業績数値を記載しております。



売上種類別の概況

■ 売上高 (単位: 百万円)

売上種類	2017/3	2018/3	概況
プロダクト 法人向け 国内	873	1,037	<ul style="list-style-type: none"> 主にFFRI yarai の売上が増加 業種では官公庁、金融業の導入が活発 国が定める重要インフラ指定業種を始めとして普及余地は依然として大きい
プロダクト 法人向け 海外	0	2	<ul style="list-style-type: none"> 2017年4月より販売を開始 現地における認知度が低く、案件化に至るまでに課題がある FFRI yaraiの検証結果の評価は高く、製品競争力を確認
プロダクト 個人向け	421	453	<ul style="list-style-type: none"> モバイル向け安心アプリチェッカーの既存契約からの売上が上振れて着地 PC向けでは FFRI yarai Home and Business Edition をリリース
サービス	177	181	<ul style="list-style-type: none"> 売上は概ね計画通りの着地 研究開発リソース確保のため、サービス案件は高付加価値の物に限定して実施

※2018/3 は連結の数値です。

区分別四半期会計期間毎の売上推移

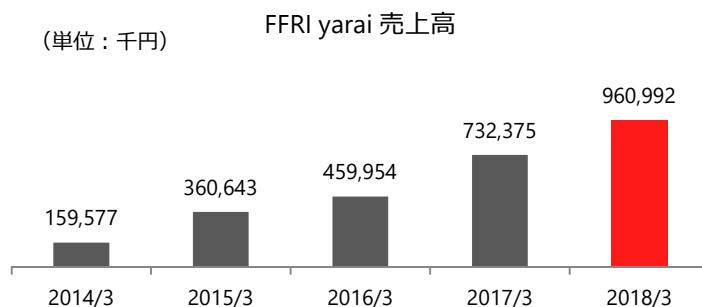
(単位：百万円)

売上区分			2017/3				2018/3			
			1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
セキュリティ・ プロダクト	法人向け	国内	165.4	197.0	265.8	244.6	243.2	255.7	274.8	263.2
		海外	-	-	-	-	0.3	0.6	0.6	0.7
	個人向け	81.2	101.2	114.5	124.2	121.8	116.3	107.9	106.9	
セキュリティ・ サービス			18.4	22.9	41.8	94.2	8.7	33.2	35.9	103.1
合計			265.1	321.2	422.1	463.1	374.1	405.9	419.4	474.1

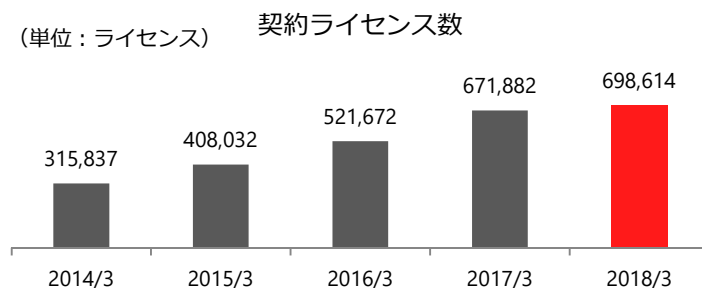
※2018/3 1Q以降は連結の数値です。



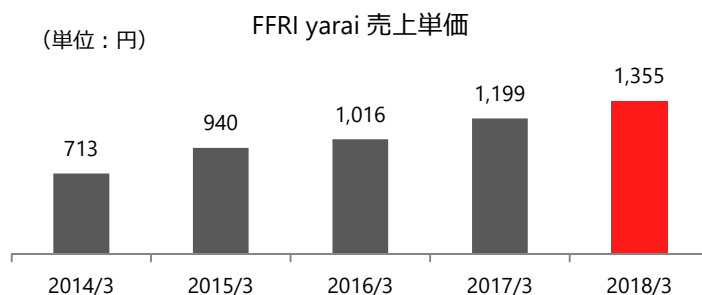
FFRI yarai シリーズの販売状況



FFRI yarai 売上高
FFRI yarai の売上は増加。ユーザーの未知脅威対策の動きは始まったばかりであり、拡大余地が大きい。



契約ライセンス数
廉価版ライセンスの販売終了による減少圧力を受けるも、契約ライセンス数は増加。



FFRI yarai 売上単価
廉価版ライセンスの減少により、売上単価が上昇。

※2018/3 は連結の数値です。

個人向け製品の事業環境

FFRI 安心アプリチェッカー

Androidモバイル端末向け
セキュリティアプリ



- ・ 契約増加により2018年3月期の売上は前年同期比7.4%増
- ・ 継続利用率は当初計画より高く推移
- ・ 競合環境の激化により、売上高は減少傾向

FFRI yarai Home and Business Edition

Windows PC向け
次世代エンドポイントセキュリティ



- ・ 2018年3月期の販売は見込みに対して低調に推移
- ・ サイバー脅威が増大する一方で、個人ユーザーにおけるセキュリティ対策の動きが積極的でない中、いかに導入を促すかが課題

積極的な販売が可能な販売チャネルの確保を模索

FFRI yarai シリーズの業種別契約ライセンス数

業種	2017/3 (ライセンス)		2018/3 (ライセンス)	
		割合 (%)		割合 (%)
中央省庁	146,377	21.8	169,803	22.9
その他官公庁	115,119	17.1	134,314	18.1
金融サービス	111,485	16.6	155,957	21.0
運輸	112,752	16.8	97,914	13.2
産業インフラ・サービス	59,899	8.9	49,853	6.7
情報通信	45,976	6.8	47,260	6.4
公共	24,099	3.6	23,424	3.2
その他	56,175	8.4	63,849	8.6
合計	671,882	100.0	742,374	100.0

(注) 2018/3 は連結の数値です。

原価及び販管費の内訳

(単位：百万円)

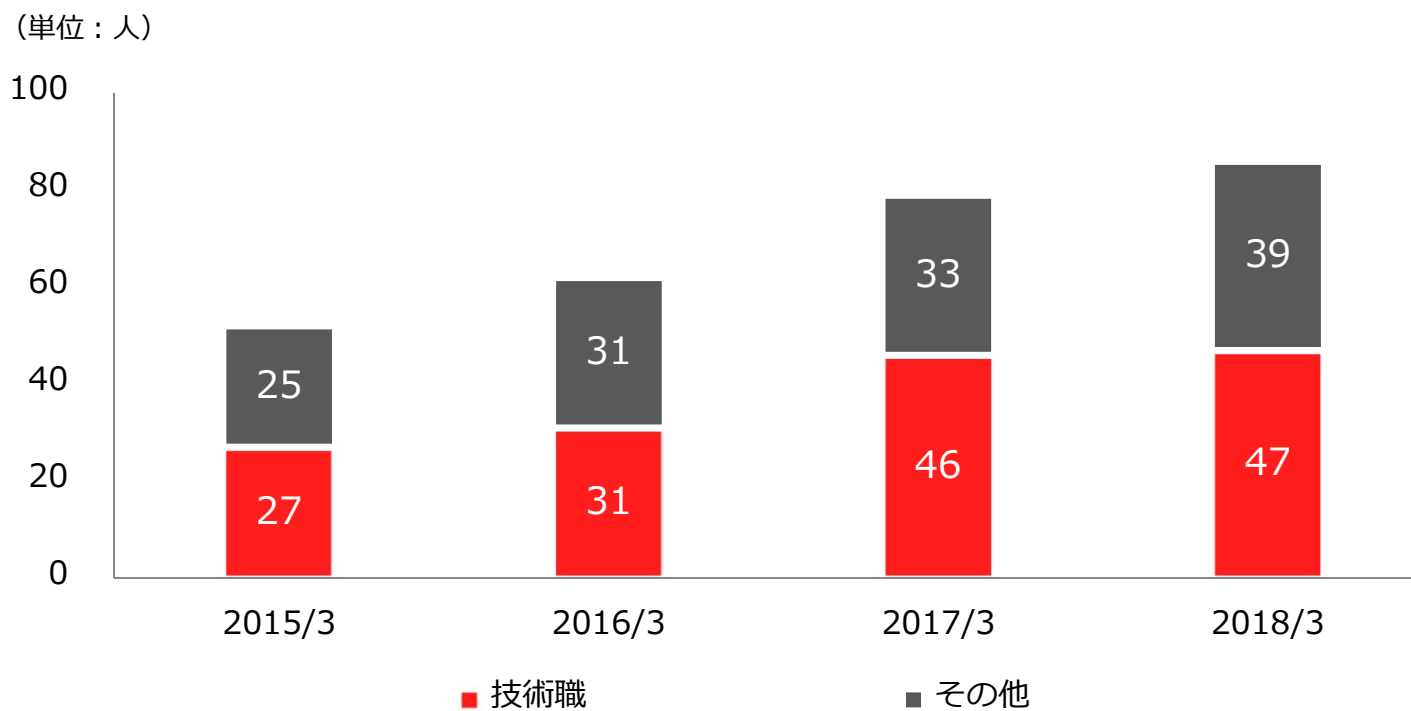
費用の種類	2017/3 (単体)	2018/3 (連結)	増減比 (%)
労務費	217	265	22.3
経費	101	92	△9.3
期首・期末棚卸及び 他勘定振替	△112	△151	—
研究開発費への振替	△104	△89	—
ソフトウェアへの振替	△5	△56	—
その他の振替	△1	△5	—
売上原価合計	206	206	0.0
人件費	307	452	47.1
研究開発費	106	90	△14.3
販売手数料	328	348	6.4
その他	265	264	△0.3
販管費合計	1,007	1,157	14.9

- 人件費、労務費：FFRI North America, Inc.を含め技術人員及び営業人員を採用。
- その他の費用支出状況に前年同期から特段の変化はなし。

(注) 2018/3 は連結の数値です。



人員数の推移



※2018/3 は連結の人員数です。

業績サマリー（貸借対照表）

（単位：百万円）

区分	2017/3 (単体)	2018/3 (連結)	増減比 (%)
流動資産	1,961	2,154	9.9
現金及び預金	1,754	1,983	13.1
売掛金	131	139	6.6
固定資産	94	129	37.0
資産合計	2,055	2,283	11.1
流動負債	751	718	△4.3
前受収益	550	575	4.5
固定負債	423	453	7.0
長期前受収益	412	442	7.2
負債合計	1,174	1,171	△0.2
株主資本	880	1,112	26.3
利益剰余金	343	565	64.8
純資産合計	880	1,112	26.3
負債純資産合計	2,055	2,283	11.1

（注）2018/3 は連結の数値です。

業績サマリー (C/F)

(単位：百万円)

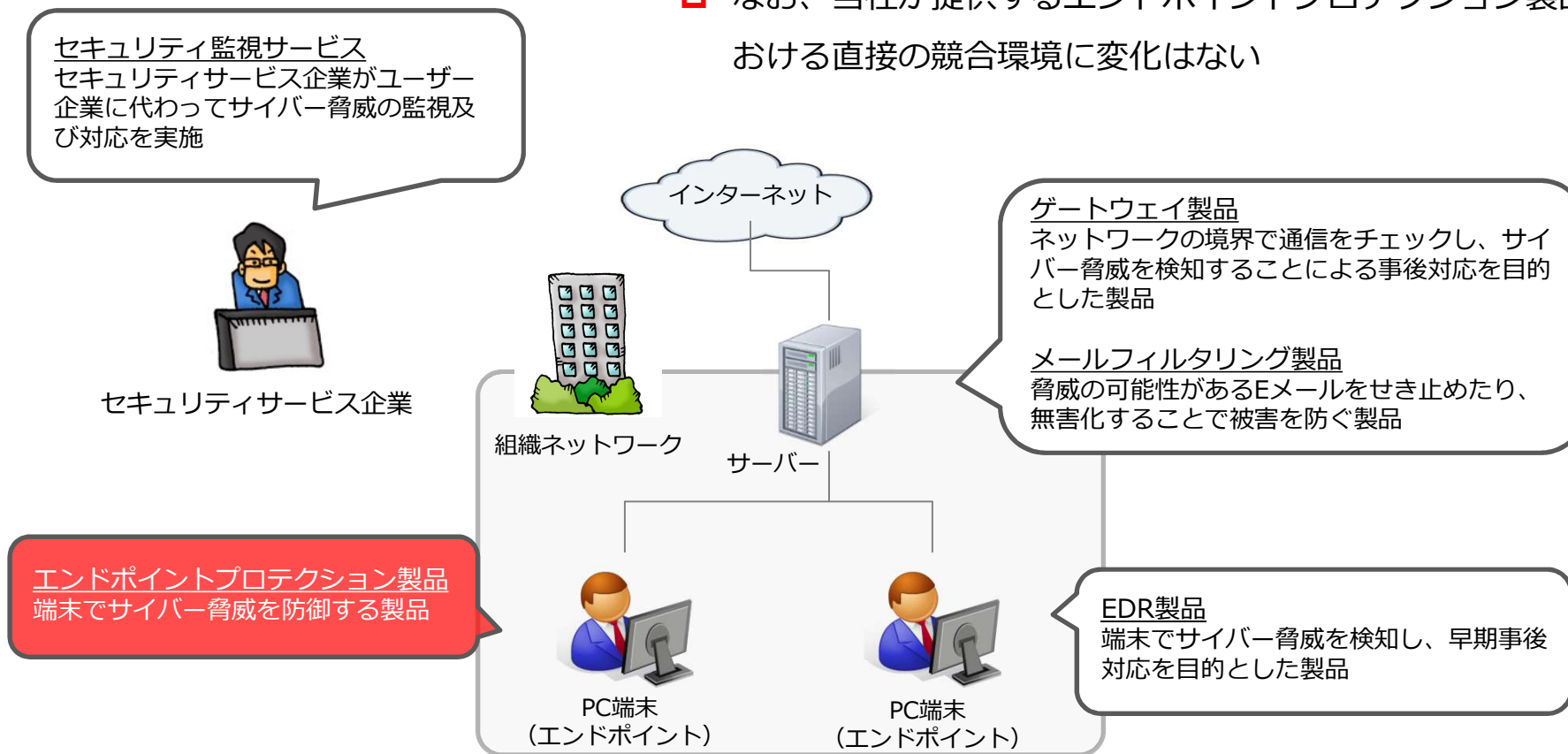
区分	2017/3 (単体)	2018/3 (連結)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,047	290
(内訳) 税引前当期純利益	257	309
減価償却費	49	34
未払金の増減額 (△は減少)	45	△37
未払消費税等の増減額 (△は減少)	59	△32
前受収益の増減額 (△は減少)	230	24
長期前受収益の増減額 (△は減少)	303	29
その他	99	△38
投資活動によるキャッシュ・フロー	△16	△69
財務活動によるキャッシュ・フロー	31	8
現金及び現金同等物の期末残高	1,754	1,983

- 前受収益及び長期前受収益の増減額：
売上計上額の増加に伴い前受収益及び
長期前受収益の増加ペースは前年同期
比で減速。

(注) 2018/3 は連結の数値です。

2018年3月期振り返り①

- ❑ 新しいサイバー脅威の対策製品・サービスが増加し、ユーザー企業は検討にかかる負荷が増大している
- ❑ なお、当社が提供するエンドポイントプロテクション製品における直接の競合環境に変化はない



2018年3月期振り返り②

ユーザビリティの向上



FFRI yarai
月額版ライセンス及び
マネージドサービスの提供



FFRI yarai
管理コンソール機能強化



個人・小規模事業者向け
FFRI yarai Home and business
Edition リリース

INFOSEC AWARDS 2018 受賞



当社グループは Cyber Defense Magazine が主催する InfoSec Awards 2018 において Anti - Malware 部門、Endpoint Protection 部門の2部門で受賞

<http://www.cyberdefensemagazine.com/infosec-awards-2018-winners/>

2018年3月期振り返り③

□ **NGEPP** (Next Generation Endpoint Protection) 製品が注目を集める

FFRI yarai が属する新しいサイバー脅威を防ぐ次世代エンドポイント製品

	次世代エンドポイントセキュリティ		従来型ウイルス対策
	NGEPP	EDR	
目的・機能	マルウェアの感染や脆弱性攻撃からシステムを防御	インシデント発生後の事後対応	マルウェアを検知して防御
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・未知の脅威を防ぐことが可能 ・攻撃を防御するため、被害が発生しない 	<ul style="list-style-type: none"> ・インシデント発生を早期に検知することで被害の拡大を食い止められる 	<ul style="list-style-type: none"> ・パターンファイルと一致した攻撃を確実に防御することが可能
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・性質上、過検出が発生する可能性を0にできない 	<ul style="list-style-type: none"> ・マルウェア感染を防ぐものではない（被害は発生する） ・インシデント発生時の対応コストの負荷が大きい 	<ul style="list-style-type: none"> ・パターンファイルがないマルウェアは防御することができない ・パターンファイル増加によるシステムへの負荷が大きい

2018年3月期振り返り④

感染を未然に防ぐことの経済性を裏付ける研究結果

東京電機大学 未来科学部情報メディア学科 サイバーセキュリティ研究所 (教授/所長 佐々木良一氏)

「入口対策をしっかり行った方が、対策コストが少なく済む」

http://www.jssm.net/wp/?page_id=2627
https://japan.zdnet.com/extra/security_vmware_201706/35103308/

入口対策

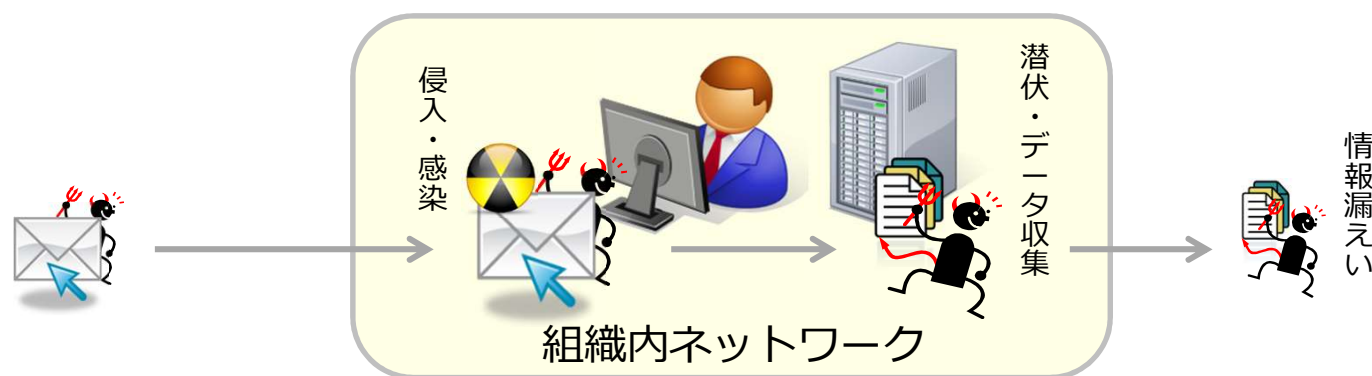
侵入防止・感染防御型

代表的な対策：NGEPP (FFRI yarai) ウイルス
対策 FW等

出口対策

検知・状態分析、早期対応型

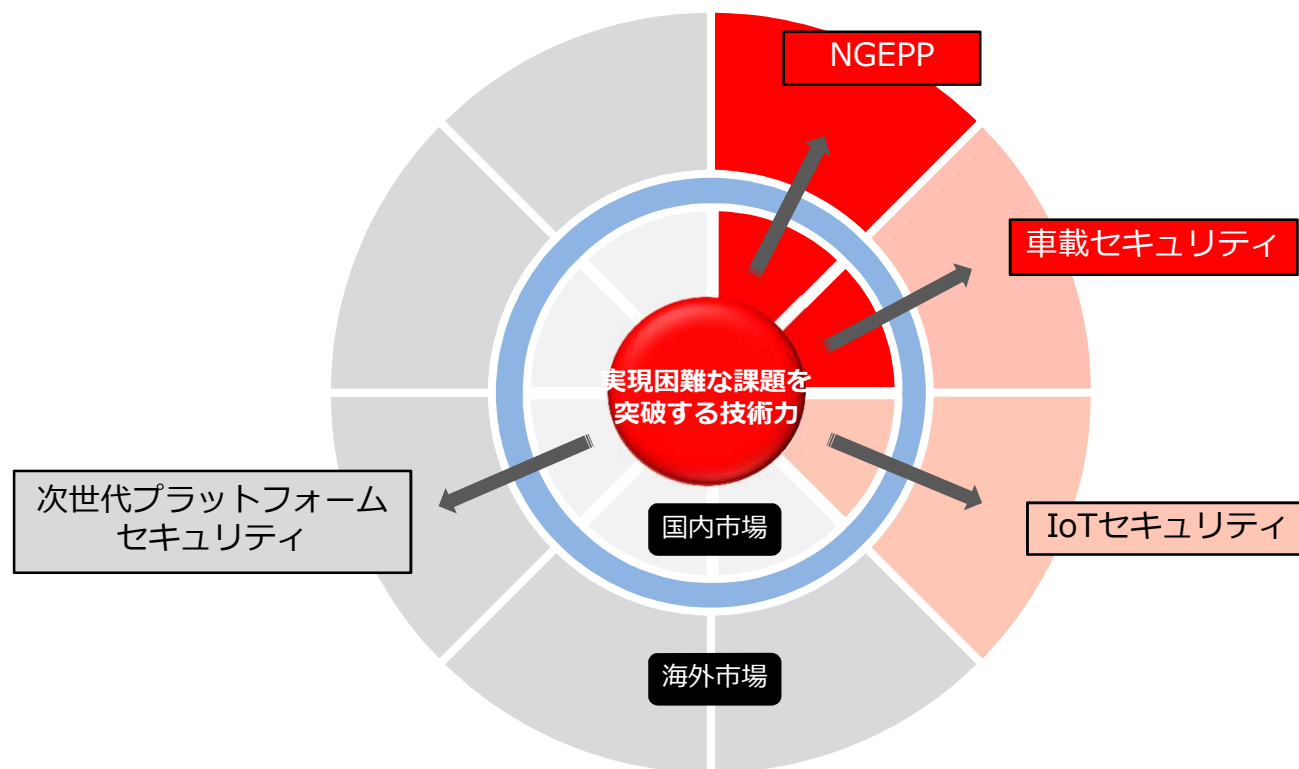
代表的な対策：EDR ゲートウェイ 監視サービス等



2019年3月期の取組み

FFRIが目指す姿

- 実現困難な課題を突破する技術力をコアに日本発の研究開発型サイバーセキュリティ企業として組織が抱える問題を解決する総合的なセキュリティサービスをワンストップで提供する。

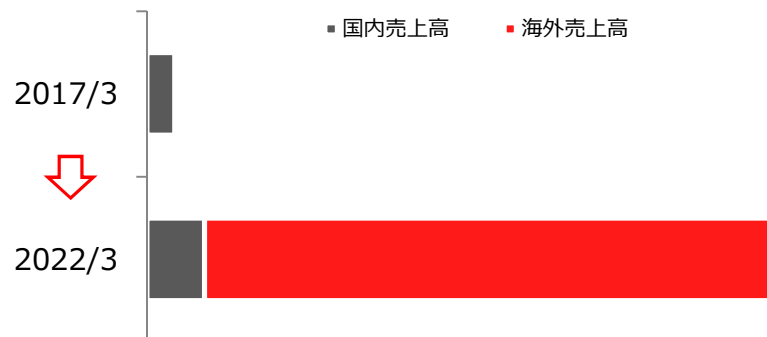


中期展望

北米に続いて
欧州・アジアへ展開を目指す



5年を目処に海外売上高を
国内売上高の10倍の規模に
育てる

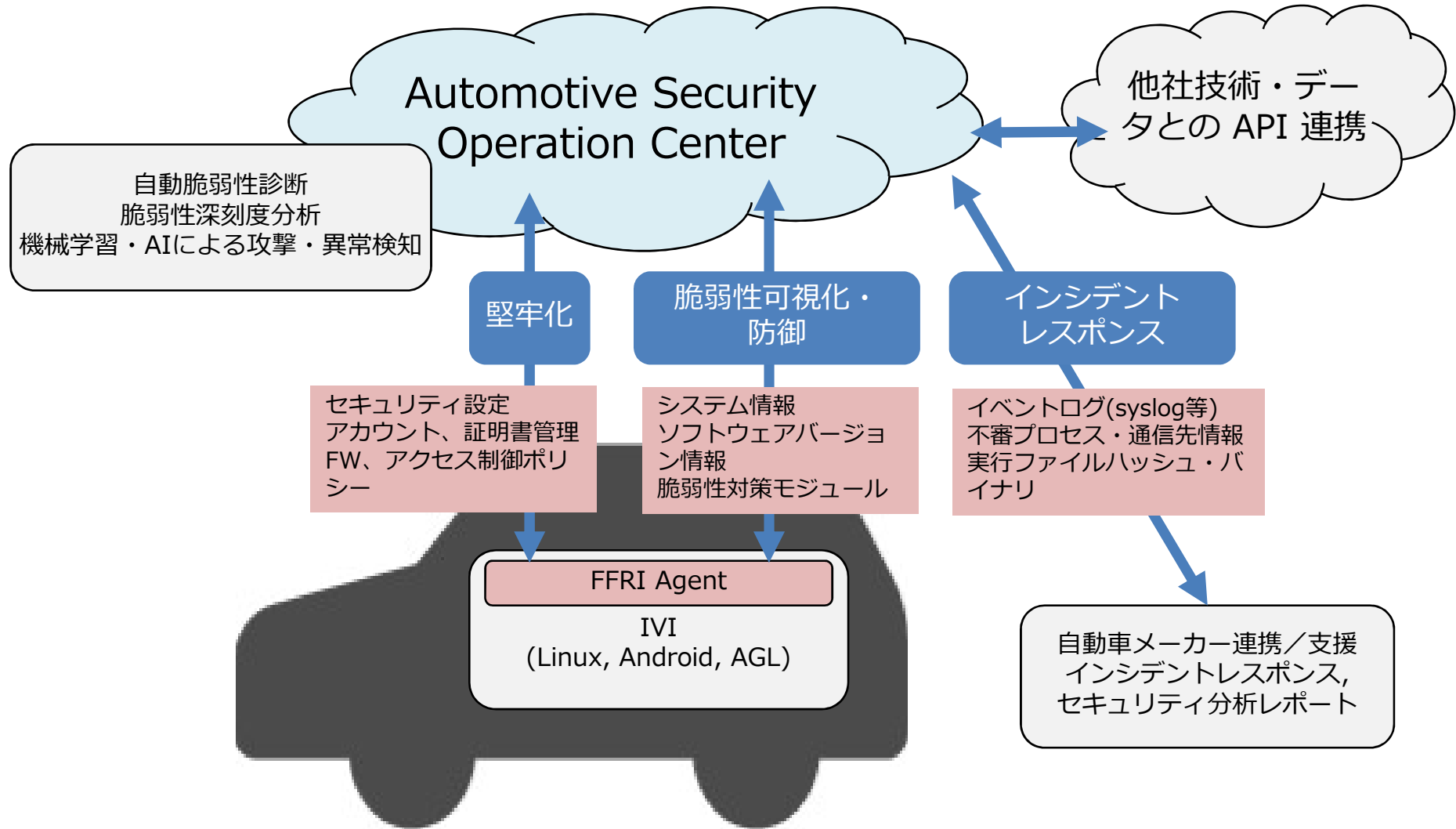




2019年3月期の取り組み

セキュリティ・ プロダクト	法人向け	国内	<ul style="list-style-type: none"> ・ FFRI yaraiの機能強化を継続実施 ・ FFRI yaraiへのEDR機能追加を始めとした、ユーザーニーズへの対応とユーザビリティの向上に取り組む ・ 戦略的販売パートナーとの連携強化
		海外	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自社のリソースによる販売から、他社販売リソースの利用を含め、販売量の増加を重視した施策に取り組む ・ アジア及び欧州市場への進出取組みを継続
	個人向け	<ul style="list-style-type: none"> ・ B to B to C の販売チャネルを強化 	
セキュリティ・サービス			<ul style="list-style-type: none"> ・ 車載セキュリティ向け研究開発の実施継続 ・ その他のIoTセキュリティ分野の開拓

FFRI の自動車 MSS のイメージ



業績予想

(単位：百万円)

区分	2018/3実績	2019/3計画	増減比 (%)
売上高	1,673	1,828	9.3
営業利益 (利益率：%)	309 (18.5)	316 (17.3)	2.1
経常利益 (利益率：%)	309 (18.5)	316 (17.3)	2.1
当期純利益 (利益率：%)	222 (13.3)	204 (11.2)	△8.2

業績予想 (売上の内訳)

(単位：百万円)

区分		2018/3 実績	2019/3 計画	増減比 (%)	
セキュリティ・ プロダクト	法人向け	国内	1,037	1,279	23.3
		海外	2	19	707.4
	個人向け	453	350	△22.7	
セキュリティ・サービス		181	180	△0.6	
合計		1,673	1,828	9.3	

<本資料の取り扱いについて>

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述等は、現時点における情報に基づき判断したものであり、マクロ経済動向及び市場環境や弊社の関連する業界動向、その他内部・外部要因等により変動する可能性があります。

従いまして、実際の業績が本資料に記載されている将来の見通しに関する記述等と異なるリスクや不確実性がありますことを、予めご了承ください。